

第5章

戦略の推進

- 1 推進体制
- 2 進行管理

第5章の色 わかなえ
若苗色

田植えの時期の若い苗のような新鮮な色で、夏の色として平安時代から使われてきました。

◆表紙の生きもの 一クロマツ（江東区の木）

第5章 戦略の推進

江東区における生物多様性の恵みは、区民等一人ひとりのウェルビーイングを高め、豊かで快適な生活を育み、地域の絆の形成につながっています。また、事業者等の活動基盤の強化や社員の意識向上、社会的な評価向上にもつながると期待されています。

江東区にある貴重な生物多様性を保全するとともに様々な課題に対処し、生物多様性の恵みを持続的かつ適切に受け取ることができる魅力ある街づくり・人づくりを進めていくためには、本戦略を推進する連携・協働体制の確保や確実な進行管理が必要です。

1 推進体制

(仮称) 江東区生物多様性地域戦略の推進や目標の達成は、江東区だけの取組や努力だけではうまくいきません。江東区の関係各課に加えて、区民等（江東区民及び通勤・通学者、地域と多様に関わる人々を含む）、民間団体（協議会・NPO等）、教育・研究機関、事業者等を、主な取組主体として位置付け、各主体だけでなく国（国土交通省、環境省等）や東京都、周辺区等と横断的に連携・協働・情報共有しながら取組を推進していきます（図 5-1）。

また、江東区に訪れる来訪者（観光等）やインターネットを介して交流する人々といった区外の情報交流人口とも情報共有や体験活動等を通した連携・協働を試みます。

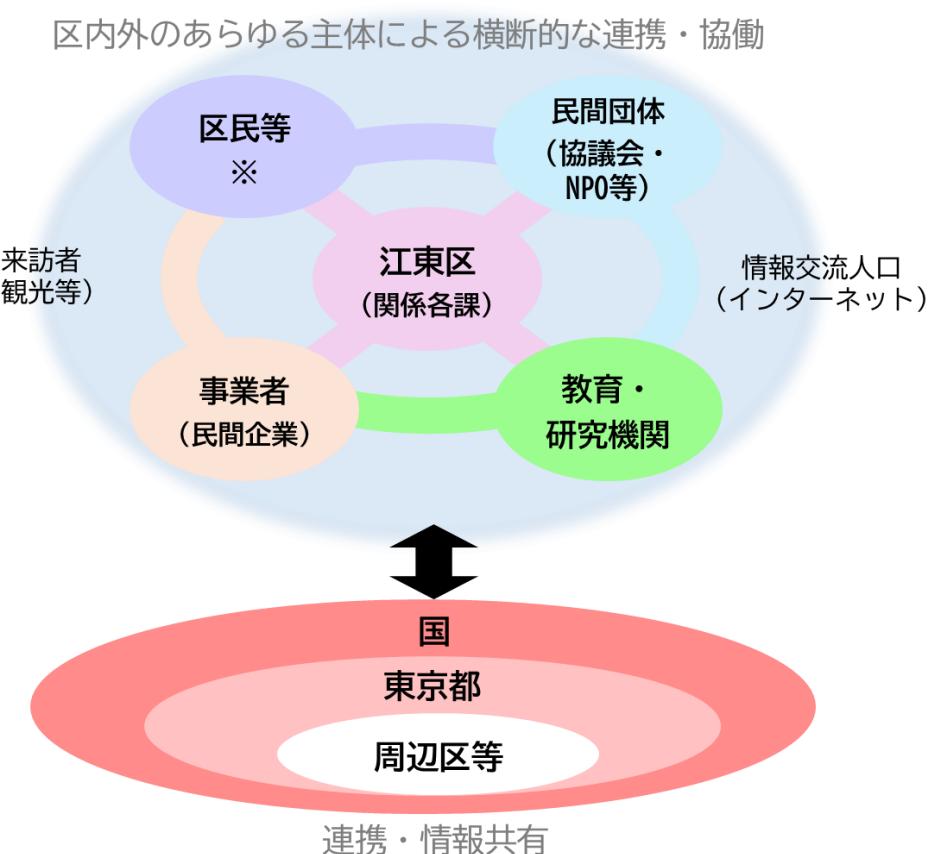


図 5-1 取組主体の関係

多様な取組主体の連携・協働を進めるには、その“きっかけ”が重要となります。江東区ではこれまで開催してきた「みどりの基本計画推進会議」や「グリーン・コミュニティ会議」、「生物多様性フェア」等を通じて、あらゆる主体が情報交換できる仕組みができ始めています。この動きをさらに広めていくとともに、これらの機会を持続的に開催していくように進めていきます。

また、(仮称)江東区生物多様性地域戦略の推進や目標の達成には、各取組主体が持つ意識（例えば、環境に配慮した行動をしようとする意識や、生きものの命を大事にする意識等）の醸成＜ヒトづくり＞が欠かせません。こうした意識は、これまでに各人が自然環境の中で五感を通じて体験してきた、自然観察や植物採集等の自然体験に基づいて育まれてきたものと考えられます。こうした体験を継続的に得るには、＜コトづくり＞も重要になってきます。そして、こうした体験は、たとえそれが人工的なビオトープであっても、多様な生きものが生息・生育している自然環境でないと得ることができません。そのため、体験を得る場所を整えるための＜モノづくり＞も重要です。

更には、このような＜モノづくり＞を進める＜ヒトづくり＞も重要であり、図5-2に示すようなサイクルをつくるしていくことが、(仮称)江東区生物多様性地域戦略の推進、目標の達成につながっていくものと考えられます。

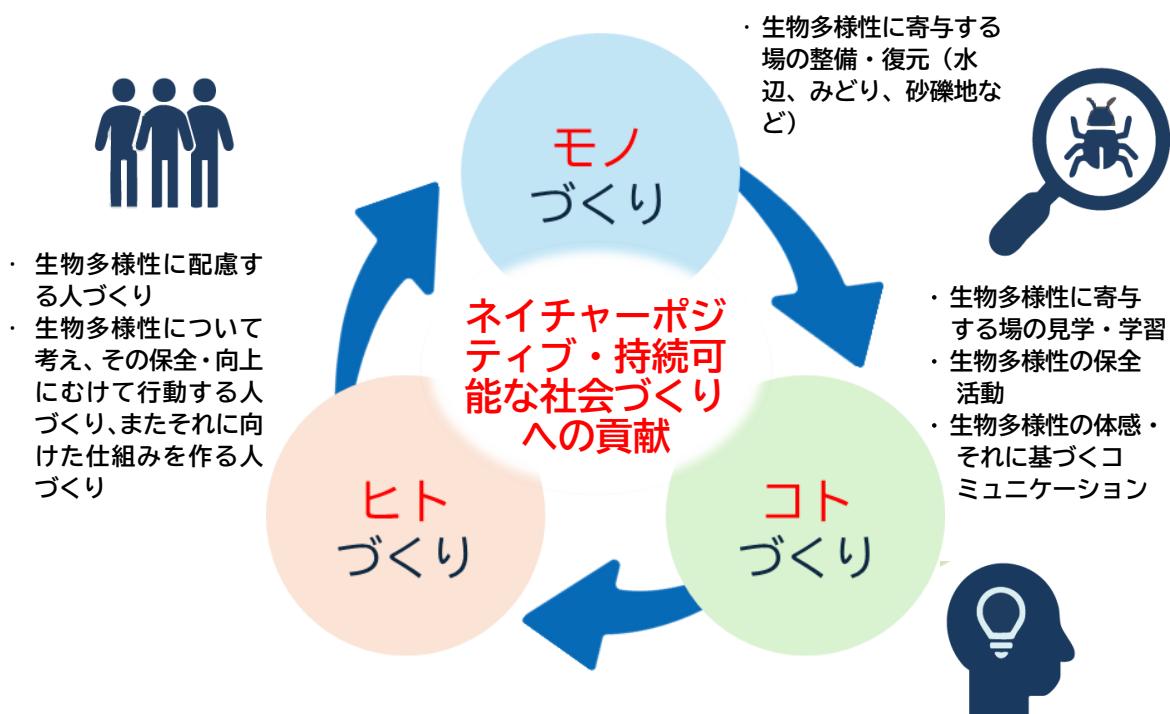


図 5-2 持続可能な社会づくりのイメージ

【出典】雑誌「グリーン情報（2023年11月号）」「清水建設株式会社の取り組み」小松裕幸氏 提供をもとに作成

2 進行管理

(仮称) 江東区生物多様性地域戦略の推進にあたっては、PDCA（計画：Plan、実行：Do、評価：Check、改善：Action）サイクルによる進行管理を基本とします（図 5-3）。PDCA サイクルによる適切かつ持続的な進行管理を行うことにより、2050 年将来像の実現及び 2030 年目標の達成に向けて、生物多様性の保全や取組の状況が現状よりも螺旋状に向上（スパイラルアップ）していくことを目指します。

また本戦略は、昆明・モントリオール生物多様性枠組の目標年次である令和 12(2030) 年を機に、国際的な目標の再改定又は国家戦略、東京都戦略の改定状況を踏まえた見直しを行います。

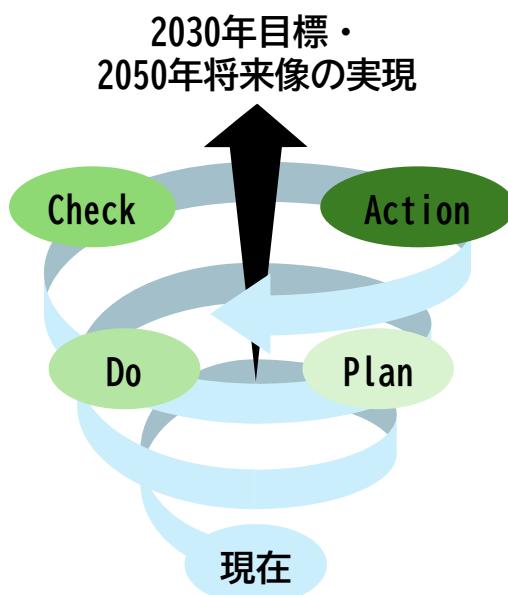


図 5-3 PDCA サイクルによる進行管理イメージ

コラム調整中

コラム調整中